



2019年5月10日

各位

会社名 株式会社京都ホテル
代表社名 代表取締役社長 福永 法弘
(コード：9723、東証第二部)
問合せ先 取締役経理部長 西川 治彦
(TEL 075-211-5111)

第2次中期経営計画に関するお知らせ

当社は、2019年3月末を以って第1次中期経営計画が終了しました。今般、2022年3月期を最終年度とする第2次中期経営計画「NEXT2022」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 策定の目的

当社は、国際観光都市である京都において1888年に創業し、2001年には国際ホテルチェーンである株式会社ホテルオークラと業務提携契約を締結いたしました。2018年に創業130周年を迎えましたが、当社の「価値」の最大化に向けて、以下の3点の深耕を図ることを策定の目的としております。

- ① お客様に最上級のサービスを提供し続ける。
- ② 株主、取引会社、取引金融機関、地元京都の関係諸団体等各ステークホルダーからの信頼を高める。
- ③ 従業員に対して自己実現の場を提供する。

2. 第1次中期経営計画総括

(単位:百万円)

	計画			実績		
	16/12期 (12ヶ月)	17/12期 (12ヶ月)	18/12期 (12ヶ月)	16/12期 (12ヶ月)	18/3期 (15ヶ月)	19/3期 (12ヶ月)
売上	10,450	10,310	10,460	10,707	12,715	10,573
経常利益	150	210	260	339	323	391
当期利益	160	160	170	261	269	174
有利子負債	14,040	13,290	12,440	13,928	12,890	12,132

計画途中で決算期変更があり単純な比較はできないものの、

数値目標はいずれの項目もクリア

- ① 収益性の高い事業への経営資源集中
外部店舗 4 店舗を計画 1 年目で撤退完了
- ② 閑散期対策の徹底
6 月の黒字化が定着
- ③ 施設競争力の向上
3 年間で約 20 億円の設備投資を実施
- ④ 人材の育成
研修体系を整備し、グループホテルとの交流を拡大
- ⑤ 財務体質の改善
3 年間で実質有利子負債を 19 億円削減

(その他の取り組み)

- ・働き方の見直し
レストラン店舗の統廃合・営業時間短縮や業務内容変更等を通じて、従業員の労働時間を大幅に削減
- ・会員制度の統合
既存の会員制度をグループの会員制度である OneHarmony に統合し、約 16,000 名の新規会員を獲得

3. 外部環境の動向

- ① 訪日外国人数の拡大
- ② 競争の激化
- ③ 少子高齢化の加速
- ④ 労働関連法規の改正
- ⑤ 税制変更
- ⑥ 自然災害の増加

4. 第2次中期経営計画目標

収益基盤の充実ならびに財務体質の改善による 磐石なサステナビリティの確立

① 収益基盤の充実

- レストラン部門は、店舗のコンセプトを再整理し、経営資源の集中について、早期見極めを実施
- 宴会部門は、高単価で規模も大きい MICE 案件の営業を強化
- 宿泊部門は、マーケットの状況や付加価値向上を見極めながら、段階的に単価を引き上げ

② 財務体質改善

- 実質有利子負債 : 2022 年 3 月期に売上高を下回る水準に圧縮
- 自己資本比率 : 2022 年 3 月期に 15%以上を確保

③ 施設競争力の強化

- 2025 年までに大規模な客室改修を完了し、総投資額は 40 億円を予定
- 給排水、電気、空調設備等、計画的なメンテナンス工事の実施

④ 人材の育成

- 連続する国際的な大イベントを控え、語学力の飛躍的向上を実現
- 接客水準の向上
- 女性活躍の推進

⑤ 顧客基盤の強化

- 顧客の世代交替を見据え、OneHarmony 会員を増強
- 顧客属性、利用状況を踏まえた効果的なプロモーション
- 広報、広告宣伝活動の戦略的な対応

⑥ ESG への取り組み

- コンプライアンスの徹底
- 働きがいのある職場環境の醸成
- 衛生管理、防火・防犯の強化
- ダイバーシティの推進
- 社会貢献活動への積極的な対応
- 環境保護に向けた取り組み強化

5. 数値目標

(単位：百万円)

	19/3 期 (実績)	20/3 期 (計画)	21/3 期 (計画)	22/3 期 (計画)
売上高	10,573	10,230	10,220	10,240
経常利益	391	240	280	310
当期純利益	174	110	110	110
実質有利子負債	10,840	10,270	10,350	9,970

※実質有利子負債は、有利子負債から現預金を控除したもの

以上